

## 第15回『このミス』大賞&lt;隠し玉&gt;作品

# 発売から2ヵ月で10万部を突破した デビュー小説『スマホを落としただけなのに』 主演：北川景子で映画化決定！

ファッション雑誌販売部数トップシェア(※)の株式会社宝島社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:蓮見清一)が2017年4月6日に『このミステリーがすごい!』大賞シリーズから発売した**宝島社文庫『スマホを落としただけなのに』**が、このたび映画化され、2018年11月2日に公開されることが決定しました。

主人公の稲葉麻美役を北川景子さんが演じ、そのほかにも豪華キャストが出演。監督は「リング」シリーズを手掛けた中田秀夫さんが務めます。

物語は、主人公・麻美の彼氏が落としたスマートフォンが“連続殺人鬼で狡猾なハッカー”である男に拾われたことをきっかけに、その男に気に入られてしまった麻美が、身近なSNSやインターネットで監視され、追い詰められていくミステリー作品です。スピーディな展開と圧倒的な描写力で、現代の日常生活に潜む恐怖を描いており、**発売直後から話題を呼び、映画化のオファーが各社から殺到しました。**また、今年のカヌ国際映画祭のマーケットに出品したところ、撮影前にもかかわらず、すでにアジア圏を中心に**32社から問い合わせが殺到し、韓国でのリメイク企画も決定しました。**

本書は、宝島社が主催するミステリー&エンターテインメントの新人賞、第15回『このミステリーがすごい!』大賞の応募作品の中から「隠し玉」として刊行し、**デビュー作では異例の発売から2ヵ月で10万部を突破、現在15万部を記録しています。**

著者である志駕晃(しが・あきら)氏は現在、ニッポン放送にエンターテインメント開発局長として勤務しており、これまでに「オールナイトニッポン」など様々なラジオ番組を作ってきた、元ディレクターでもあります。

『このミステリーがすごい!』大賞における「隠し玉」とは、受賞には及ばなかったものの、ベストセラーになる可能性を秘めているものを発掘し、刊行しているシリーズです。過去にも『死亡フラグが立ちました!』『もののけ本所深川事件帖 オサキ江戸へ』などのヒット作品を刊行しており、『珈琲店タレーランの事件簿』は、シリーズ累計227万部を突破しベストセラーとなるなど、人気作を世に送り出してきました。

宝島社は企業理念である「人と社会を楽しく元気に」のもと、今後もお客様に喜ばれる良質なコンテンツを企画・提供し、様々な業界の活性化に寄与していきたいと考えております。

※日本ABC協会 雑誌発行社レポート2017年下半期(7~12月)より

累計発行部数

**15万部突破!**



## 【『スマホを落としただけなのに』あらすじ】

麻美の彼氏の富田がタクシーの中でスマホを落とした。拾い主の男はスマホを返却するが、男の正体は狡猾なハッカーだった…。

麻美を気に入った男は、麻美の人間関係を監視し始める。セキュリティを丸裸にされた富田のスマホは、身近なSNSを介して麻美を陥れる凶器へと変わっていく。

マンガ版!



映画公開：2018年11月2日(金) 全国ロードショー

宝島社文庫  
『スマホを落としただけなのに』

■発売日：2017年4月6日  
■定価：本体650円+税

『このマンガがすごい! comics スマホを落としただけなのに』

■発売日：2018年4月13日  
■定価：本体640円+税

※『このマンガがすごい! WEB』で1&2話が無料公開中!  
<http://konomanga.jp/manga/sumahowootoshitadakenanoni>



# 著者、主演・北川景子、監督からのコメントを紹介！

## 著者:志駕晃(しが・あきら)氏コメント



殺人事件に巻き込まれる経験をした人は滅多にいませんが、スマホを落とした経験は誰にでもあるでしょう。しかしそのスマホを拾ったのが、悪意をもった天才クラッカーだったら……。

この『スマホを落としたただけなのに』は、私自身、酔っ払ってスマホを落とし、誰にも連絡が取れず四苦八苦した経験から生まれたサイバーミステリーです。運よく出版化にこぎつけたと思ったら、僅か1年半で映画化となり、さらに密かにこの人ならばと思っていた北川景子さんにまさか本当に主演してもらえとは……。スマホを落としたただけなのに、その後の夢のような展開にただただ驚いています。

しかし普通はスマホを落とすと、データの流出やSNSのなりすましなど、とっても怖い目にあいますので、この映画を見てセキュリティを強化してください。絶対に、参考になるはず。なにしろこれは、誰にでも起こりうるミステリーですから。

## 待望の最新作！

ラジオ局勤務の著者の  
経験を生かした(?)  
ラジオ業界×密室殺人！



宝島社文庫

『ちょっと一杯のはずだったのに』

■発売日：2018年6月6日

■定価：本体630円＋税

## 志駕晃(しが・あきら)プロフィール

1963年生まれ。神奈川県横浜市在住。明治大学商学部卒業。

ニッポン放送入社後、様々なラジオ番組制作に関わる。担当番組は「ウッチャンナンチャンのオールナイトニッポン」「ドリアン助川の正義のラジオ!ジャンベルジャン!」「中居正広のSome girl」SMAPなど多数。第15回『このミステリーがすごい!』大賞「隠し玉」として『スマホを落としたただけなのに』でデビュー。最新作 宝島社文庫『ちょっと一杯のはずだったのに』を6月6日に発売。

## 主人公:稲葉麻美役 北川景子(きたがわ・けいこ)氏 コメント



この映画のオファーをいただいたとき、まず最初にタイトルが目飛び込んできました。自分自身ではなく、恋人がスマホを落としたことから、自分自身の過去、個人情報、SNSのアカウント情報、写真などが次々と流出し、人生が変わってしまう不運な主人公を絶対に演じたいと思いました。スマホやSNSのセキュリティ管理は、きちんとしているつもりでも、どこに落とし穴があるか分からない…。でも、本当のひとりの絆や愛は、スマホを通じてではなく、心で通じ合うものだというのが、この作品のテーマだと思っています。中田監督とは初めてご一緒しますが、脚本に対する私の質問のひとつひとつに丁寧に答えてくださり、中田さんと一緒に映画を作れるならとても安心だと思いました。普通のカップルの普通の日常が、ただスマホを落としただけで一変してしまう…。そんなスリリングな部分と、日常のシーンとのコントラストに配慮しながら丁寧に作っていききたいと思います。良い作品を作れるよう頑張ります。

1986年8月22日生まれ。

【代表作】『謎解きはディナーのあとで』(2013)、『抱きしめたい—真実の物語—』(2014)、『君の膵臓を食べたい』(2017)  
『探偵はBARにいる3』(2017)

## 監督:中田秀夫(なかた・ひでお)氏 コメント

『スマホを落としたただけなのに』は、この原作の題名にまずはヤラれました。

現代人(ほぼ世界中の人々)が「最も身近な相棒」をうっかりどこかに置き忘れただけで、「いったいどこまでの目に遭うの?」と誰もが関心を持つテーマで、エンターテインメントの題材としても大きな可能性を感じます。「出口なしの現代の迷宮」にあっという間に引きずり込まれていくヒロインたちに、思いきり感情移入しながら観てもらえる作品に仕上げたいと思います。一方、ヒロインを北川景子さんに演じていただくことで、状況は最悪なのだけれど、同時に、洗練され、どこか優雅なテイストを持つ、ミステリーにしたいと思っています。そういう意味で、おこがましいですが、「ライバルはヒッチコック」を胸に、撮影に挑みます。

1961年7月19日生まれ。

【代表作】『女優霊』(1996)、『リング』(1998)、『L change the WorLd』(2008)、『クロコリ団地』(2013)